

福岡市設計測量業協会「第30回 あそこまでなんぼ」開催  
足で測り、目で学ぶ！歩いて感じる都市づくりの原点



一歩一歩が測量につながる「あるいてなんぼ」

(一社)福岡市設計測量業協会(宗道昭会長、福岡市中央区)は3日、「測量の日」の記念イベントとして第30回「あそこまでなんぼ」を天神中央公園(福岡市中央区天神一丁目)で開催した。このイベントは、測量の面白さを広く知ってもらうことを目的に、公園内に設けた側線の距離や図形の面積を自分の歩幅だけで測るという企画。節目の回を迎えた今年はテレビ局の取材も入り、福岡国土建設専門学校の学生や一般来場者など約260人がにぎやかに歩測に挑んだ。

来賓には、国土地理院九州地方測量部の仲井博之部長、福岡市財政局技術監理部の前田利家部長、福岡市道路下水道局建設部の井手章太郎部長、(公社)日本測量協会九州支部の横山巖支部長、(一社)福岡県測量設計コンサルタント協会の福澤一博会長、福岡国土建設専門学校の谷口茂敏校長らが出席。



あいさつする宗会長

冒頭で宗会長は、「本日6月3日の『測量の日』に、恒例イベント『あそこまでなんぼ』の30回目を無事に迎えることができ喜ばしく思います。国土地理院、福岡市をはじめ多くの来賓・後援の皆様にご協力いただき感謝申し上げます。測量業界は今や衛星測位やDXなど最先端のIT技術が当たり前の時代になりましたが、本イベントはあえて自分の歩



何度も何度も確認しては、歩幅が決まらない

幅で距離や面積を測るという超原始的な方法に挑戦するものです。自分自身も学生時代に水準測量で機械を真ん中に据える難しさを体感しました。そうした基本の感覚を今日の歩測を通じて身につけてほしい。雨も上がり、絶好の測量日和です。どうぞ歩測を楽しんでいただきたい」とあいさつした。

来賓あいさつでは、国土地理院九州地方測量部の仲井部長は「節目の第30回、誠におめでとうございます」と述べ、福岡市設計測量業協会の長年の取り組みに敬意を表した。歩測は「水準測量において欠かせない技術のひとつです。いかに一定の間隔で歩けるかが重要」と語りながら、参加者への挑戦を促した。次に福岡市財政局管理部の前田部長は、福岡市は天神ビッグバンやウォーターフロントなど魅力ある街づくりが進む一方、「台風や災害の多発化にともない、インフラの老朽化対策にも取り組んでいる」と語った。「街づくりの根幹には測量がある」と述べ、測量技術が福岡市の発展に果たしてきた貢献に謝意を示した。

また福岡県測量設計コンサルタント協会の福澤会長（宮本朋忠副会長が代読）は、『あそこまでなんぼ』が30回続いたことは、市民に身近な存在として信頼された証です。参加者の中から10年後、20年後の福岡を支える若き測量技術者が誕生することを期待しています」と力強く訴えた。

最後に福岡国土建設専門学校の谷口校長は、「測量は安全・安心な生活を作る基盤であり、誇りある職業」と語り、総勢120数名の参加者に向けて優勝への奮起を求めた

続いて井野康平理事から実施要領の説明があり、「あそこまでなんぼ」の掛け声とともにイベントが幕を開けた。スタート地点に立った参加者たちは、距離や面積の測定に向けて歩幅を慎重に確かめる姿や、仲間と互いの結果を競い合う様子など、それぞれのスタイルで歩測の醍醐味を味わった。イベントの結果は、面積当て・歩測ともに、学生勢が健闘し上位を席卷した。一方、歩測では3人が全く同じ数値を記録するというハプニングが発生。

順位はじゃんけんで決着をつけることとなり、アナログな測量ならではの微笑ましい一幕として会場を和ませた。

測量の日：昭和24年6月3日に測量法が公布され、満40年（平成元年）に、毎年6月3日を「測量の日」と制定。測量の重要性と技術の紹介が、全国各地の関連イベントで行われている。



イベント終了後、笑顔があふれる記念撮影